



まなびやまと



No.31

平成30(2018)年3月
大和市教育委員会

《小学校外国語・外国語活動》

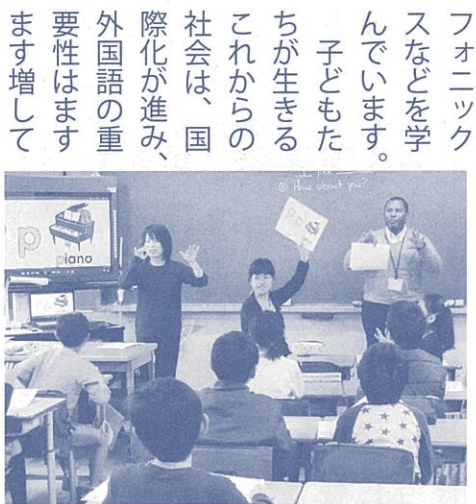
楽しく「聞く」「話す」外国語活動 ～小学校の外国語活動～

大和市立上和田小学校

上和田小学校の3年生の外国語活動は、元氣いっぱいこの歌から始まりまし
た。市立小学校では、数年前から3・4
年生の外国語活動を国の動向に先行
して取り組んでいます。



この日は、フォニックス(文字と音との関係)を学んだ後、好きな果物を伝えたり、尋ねたりして楽しく活動しました。担任は、自ら見本を示し、児童に間違いを恐れずにコミュニケーションをとることや、ジェスチャーを付けること、目を見て話をすることを伝えました。また、外国語(英語)活動指導助手の先生と連携をとり、それぞれが役割を持ちながら、授業を進めていき
ました。最後のストーリータイムでは、お話と一緒に歌も流れ



現在5・6年生で行われている年間35時間の外国語活動が、3・4年生からへと変更になります。
大和市教育委員会では、次期学習指導要領の円滑な実施にむけて、先行実施として、授業時間の他に全学年で、朝や昼などに短時間学習(15分)を実施しています。短時間学習では、歌やお話が入った映像教材を活用しながら、挨拶や会話等の基本的な英語表現やフォニックスなどを学んでいます。
子どもたちが生きるこれからの社会は、国際化が進み、外国語の重要性はますます増して



ます。児童は、音楽に合わせて英語で歌を歌っていました。
平成32年度から全面実施となる次期学習指導要領では、

いきます。上和田小学校の授業のように、先生と子ども同士の触れ合いの中で楽しみながら学習する外国語活動を目指します。



リアルタイム国際交流が始まる ～異文化を通して国際感覚を～

英語圏の子どもとの日常的なコミュニケーションができる場をつくるために、大和市教育委員会はオーストラリアの小学校と国際交流事業を共同で行います。

同じ時間帯を共有できる時差の少なさを生かし、インターネット回線によるビデオ通話サービスを活用して、オーストラリアの小学校と市内の2つの小学校とでリアルタイムの交流を行います。

モニタを通じた映像ではありませんが対面で視覚的に異文化に触れることで「多様性」や「共生」という国際感覚が育まれることも期待しています。



《中学生への学習支援》

自ら学ぶ姿勢を身に付けるために
 ～中学1年生への数学と
 英語の学習支援～
 大和市立鶴間中学校

大和市教育委員会では、自ら学ぶ姿勢を身に付けられるように、小学校から中学校まで継続した学習支援を実施しています。

鶴間中学校1年生の英語の授業では、2人の教員による、TT(ティームテイーミング)の授業が行われていました。TTとは、複数の教員が協力して授業を行う指導方法のことです。



2人の教員が指導するTT

この日は、3ヒントクイズから授業が始まりました。2人の教員が先生役と生徒役となり、クイズのルールを英語で説明します。教員のお手本を聞きながら「わかった、そういう意味か」とルールの確認をした生徒は、グループで3ヒントクイズを楽しみます。

した。また、教員が考案した「弾丸インプット」という、単語を連続して発音する練習方法でも元気に活動していました。2人の教員が、状況に応じ役割を交代しながら工夫した指導を行っていました。



数学の授業では、少人数による指導を行っていました。数学の時間になると生徒の半分は教室から会議室へと移動し、それぞれが、同じ内容を学習します。どちらの教室も15人ほどの少人数となり、個に応じたきめ細かい指導が行われていました。教員は、「わからないことがあったらどんどん声をかけてください」と言っており、教室内を巡り、質問のある生徒には、手本を見せながら作図の方法を教えていました。生徒は、少人数の数学の授業について「わかりやすい」「楽しい」「周りの友だちと相談しやすい」「先生に質問しやすい」「人数が少ない方が集中できる」と話してくれました。また、教

2つの教室に分かれて行う少人数指導



員も「一人ひとりの状況が把握しやすい」「つぶやきや表情にすぐ対応できる」と語りました。TT・少人数指導ともに効果的な指導に向けて協力が重要になります。教員間で密な打合せをしながら進めています。

「寺子屋やまと」が中学校にも拡大
 ～切れ目のない支援で
 学ぶ姿勢を育む～
 大和市立上和田中学校

全市立小学校で実施している「放課後寺子屋やまと」が、平成29年度から中学校でも「中学校寺子屋」として開始されました。

上和田中学校の中学校寺子屋は、上和田チャレンジルームという呼び名から「上チャレ」という愛称で生徒に親しまれています。



放課後になるとパソコンルームに生徒が続々と集まってきました。受付で学習支援員から「上和田チャレンジカード」をもらい、それぞれの課題に



取り組みます。そして、その日、取り組んだ内容をスタンブカードに書き、帰りにスタンブをもらいます。

生徒は、授業の復習、宿題やテスト勉強等、自主的に課題を決めて学びます。インターネット環境で利用できる教材での学習も盛んに行われていました。生徒は、自分に合った課題を見つけて取り組み、採点も自分で行うことができます。他にパソコンを利用して部活動での調べ物や発表用の資料を作っている生徒もいました。

生徒は、わからないことがあると学習支援員に聞き、解決することができます。学習支援員は、学習習慣の定着による学力の向上を目指して一人ひとり丁寧に指導しています。

小学校からの継続的な学習支援により、学ぶ姿勢や学習習慣を身に付けることにつながっています。



挫折を乗り越え夢の実現へ

「JFA」のプロジェクト「夢の教室」

大和市立つきみ野中学校

12月12日(火) つきみ野中学校で「夢の教室」が開催され、横浜ベイスターズの濱口遥大投手が夢先生として来校しました。

「夢の教室」は、様々な競技のスポーツ選手などを「夢先生」として学校へ派遣し、「夢を持つことやその夢に向かって努力することの大切さ」や「仲間と協力すること」などを、ゲームと夢先生の体験談を通じて子どもたちに伝えていくプロジェクトです。

ユニフォーム姿の濱口選手が体育館に現れたときは、少し緊張した様子の生徒たちでしたが一緒にキャッチボールをした後、ゲームが始まると笑顔が見られるようになりました。ゲームでは、目標達成を目指しますが、最初は、なかなかうまくいきませんが、濱口選手を中心に作戦タイムをとったり、



濱口投手と作戦タイム

作戦を基にゲームを再び行ったりすることで、仲間と体を動かしながら協力することの素晴らしさを体

感しました。

後半は、スーツ姿で教壇に立った濱口選手の体験談を聞きました。小学校で野球を始め、プロ野球選手を夢見て頑張っていました。が、中学校に入ると、試合に出られない日々が続く。野球が楽しくないと思うようになり夢を諦めてしまったそうです。しかし、良い先輩に出会い、良い環境を自分で選んだことにより、高校や大学で活躍することができ、日本代表となることで、一度諦めかけたプロ野球選手になるとい夢が目標に変わったという話を、生徒は真剣に聞き入っていました。最後に「長所を伸ばし、どんなことでもよいので夢を持つてほしい」と夢や目標を持つことの大切さを伝えました。



「夢を公表しました。」「獣医になりたい」「中学校の先生になりたい」と話す生徒に「頑張ってください」と濱口選手も嬉しそうに励ましの言葉をかけていました。

この授業は、夢を持ち続けるために夢と現実をつなげるものについて考えを深める良い機会となりました。

希望の未来をつくる環境教育

「やまとみどりの学校プログラム」の取り組み

大和市立の小・中学校では、学校における環境教育を推進し、環境を大切に考え、できることから始めようとする子ども育成を目的とした「やまとみどりの学校プログラム」の活動に取り組んでいます。このプログラムには、学校・クラス・有志グループ等、様々なまとまりで参加することができます。今年約50団体が参加しています。その中から3校の取り組みを紹介します。

40周年を花で飾ろう

下福田小学校の環境美化委員会では、学校の創立40周年に向けて、自分たちで何かできることはないかを考えました。話し合いの結果、花壇に花文字を作ろうということになりました。

ました。これは、児童から集まったデザインを元に、花で「祝40」の文字を作ったものです。パンジーを中心に、色とりどりの花が咲くよう育てています。

大根を育てよう

上和田小学校では、防虫ネットや



つる性植物用の支柱を準備し野菜作りに取り組んでいます。昨年度は、大根の重さを競う「全国ジャンボ大根フェスティバル」に参加し、9.6kgに育て神奈川県で1位に輝きました。本年度も3月に行われるフェスティバルに向け大根を大切に育てています。



落ち葉掃きボランティア

大和中学校では、大きく立派なイチョウの木。「落ち葉掃きボランティア」を実施しました。これは、美化委員とボランティアを中心に、全校生徒からボランティアを募り、12月の月・水・金曜日に学校周辺の歩道の落ち葉を掃くものです。自主的な参加による活動を実施したことで、生徒のボランティア意識が高まっています。

希望ある未来をつくるためにやまとみどりの学校プログラムは、子どもたちの身近な問題から課題を見つけ、解決に向けて主体的に行動できる子どもの育成に貢献しています。

生徒の力が発揮される 生徒会活動・部活動

大和市立引地台中学校

引地台中学校は、今年度創立42年になります。各学年5・6学級の中規模校で、学区には3つの小学校があります。本校生徒は、生徒会活動や部活動での生き生きとした活動を通して、達成感を味わいながら、豊かな人間関係を築いています。



朝のあいさつ運動の様子

生徒会活動では、運動会や文化発表会などの行事を自主的に運営するとともに、学校生活をよりよくするために、「今、自分たちにできることは何か」を考えて取り組みに移しています。その一つが、朝のあいさつ運動です。豊かな人間関係はあいさつからという考えのもと、十数年前に、当時の生徒会本部役員が始めたのがきっかけです。その後、中央委員・風紀委員の生徒が交代で加わるようになり、さらにPTAや家庭・地域教育活性化会議の方々が加わり、次第に輪が広がっていきなりました。皆が一緒に

はよう」の声を掛け合うことで、一日が気持ちよくスタートしています。今年度は、生徒会本部役員の「引地台中学校をよりよくするために、全校でもっと人間関係を大事にしていきたい」という思いから、生徒会本部役員による寸劇で問題を提起しました。その後、各学級で行われる中央委員による継続的な働きかけ、スローガンづくりとその振り返り、月一回の「Thank you song」での「ありがとう」の手紙交換などに取り組んできました。これらは、その時だけの取り組みではなく、継続できる取り組みとして考え出されたものです。

また本校の部活動は、運動部10部文化部5部が活動しています。いずれの部もしっかりとした目標を持ち、生徒の主體的な活動により、素晴らしい成果を残しています。夏季市大会で優勝・準優勝している運動部は、昨年度今年度ともに7部ありました。

文化部の活動もとても盛んです。各種コンクールで数多く受賞しているほか、地域の福祉施設への慰問活動や保育園への定期的な演奏、ふれあい広場等での演奏など、地域と連携した活動も多くあります。

毎年一回ずつある学校敷地内清掃と地域清掃では、すべての部活動の生徒300名近くが参加します。生徒の自主性を尊重し、自ら考えて行動できるようになる。生徒が主役として活躍できる。いつまでもそんな学校でありたいと思います。

情報社会を生きるために 親子PTA行事

大和市立林間小学校

12月13日(水) 林間小学校の6年生の保護者が(株)教育ネットから講師を招いて児童とともに「情報モラル」について学びました。児童が安全にインターネットを使用するためには、児童だけでなく保護者のセキュリティに対する意識も必要だという考えのもと親子行事として開催されました。

最初に現在のインターネットの普及人口についてクイズが出されました。答えは、全世界の人口の約半分の34億人だそうです。南極にも基地局があり、北極の一部でもつながる環境にあるという解説を聞き、参加した児童も保護者も驚いていました。

現在は、生活の一部となっているインターネットですが、使い方を間違えると大変です。トークアプリを使って友だちとトラブルになるといった内容の動画を見て、どうしたらトラブルを防ぐことができたのだろうかとみんなで話し合いました。児童からは「家でのルールを守る」「友だちとラインをするときは、家のルールを友だちにも伝えておく」等たくさん意見が出ました。また、保護者からもトラブル回避についての考えが出されていました。

「スマートフォンが普及し、文字によるコミュニケーションが増えています。しかし、言葉は、言葉

だけで独立するものではありません。その時の表情や、声の抑揚でも多くを伝えることができます。そこで、インターネットでトラブルになりそうなときは、会って話をする、目と目を合わせて語り合うことを大切にしましょう」という話に皆大きくうなずいていました。

インターネットやアプリは、正しく使うことができれば、とても便利で役立つものです。特に災害情報共有では大きな役割を果たすこともあります。保護者は、「子どもたちには、賢く、安全に使うための知識や知恵を持ち、ルールを守って使ってほしい」と話してくれました。



「まなび やまとは、開かれた教育行政の一環として、保護者、市民、教職員向けに、本市における各学校の教育活動や教育委員会の事業を、具体的にお知らせしようとするものです。お読みいただき、ご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いです。〈お問い合わせ〉大和市教育委員会 指導室 2605210 教育研究所 2605213